

## 使用施設の初期境界評価に関する事例検討会（第2回における主なコメント）

管理番号	コメント	回答
<b>【事例④】</b>		
①	放出が希ガスだとフィルタでとれないので、放出量が通常範囲内であれば、フローの I-C に進んでフローがあってもよいではないか。	希ガス等の気体の放射性物質の放出については事例⑰で議論する。(事例⑰の⑦にて回答)
<b>【事例⑦】</b>		
②	フローの I-C の「バックグラウンドの揺らぎの範囲」の表現がわかりにくいので、検討してほしい。	表現について検討する。
③	仮に負圧の喪失時間がすごく短い場合、フローの I-A で許可等の事故に該当にするのか。フローの進み方はどうなるのか。	許可等の事故に該当しない事象と想定した場合、フローの I-A で「No」となり、モニタリングポストのバックグラウンドに影響がない場合は、フローの I-C で「No」となり、評価結果が「追加対応なし」になると考える。 また、次回の事例検討会で質問があった内容と類似する全交流電源喪失の事例に対して議論を行う予定なので、その時に改めて議論する。
<b>【事例⑩】</b>		
④	フローの II-A で防護策の残りが2以上あり「追加対応なし」と判断される場合、仮に社会的な関心が高まったときでも、同様の評価であるか。	社会的な関心によらず「追加対応なし」と判断する旨回答した。また、過去に加工施設の重要度評価の検討をしたときも同様な議論があり、防護策が2つ以上あれば、社会的な関心が高くても、「追加対応なし」に判断すると結論付けた。
⑤	本事象は許可等の事故に該当する場合の評価は「追加対応なし」となっているが、許可等の事故に該当しない場合においても、同様に「追加対応なし」の評価結	許可等の事故に該当しない場合は、フローの I-A で「No」となり、フローの I-C で「No」となるため、「追加対応なし」となる。

	果となるのか。	
⑥	許可等の事故であるかどうか関係なく、事象が同じ場合は同じ評価結果になるので、フローの I-A と I-C がなくても、フローの I-B があれば十分と考える。	フローの I-C の表現を含め検討する。
【事例⑰】		
⑦	希ガス等の気体の放射性物質に対する閉じ込めの防護策がない施設において、気体の放射性物質の放出に関連する検査気付き事項が確認された場合、フローの II-A で閉じ込めの防護策がないと整理するフローとするのであれば、気体の放射性物質の放出の影響などを SERP で適切に検討する必要があるのではないか。	ご指摘の点は SERP で丁寧に確認するものとの認識を示すとともに、気体の放射性物質の放出に関連する検査気付き事項については、運用を明確にするため、フロー等で SERP に進むことを明記することを検討する。
⑧	希ガスに対する閉じ込めの防護策が存在しないので、このフローでよいが、SERP に進んだときに活性炭など希ガスを滞留させる措置を有する施設も考えられるので、SERP で議論するときはその点を考慮してほしい。	SERP で議論するときはその点を考慮する考えである。
⑨	本事例は許可等の事故に該当することで、フローの I-B に進み、実行線量が $2.1 \times 10^{-1} \text{mSv}$ で、II-A に進み、希ガスの防護策がないため、SERP に進むことでよいか。	そのとおり。
⑩	本事象が許可等の事故になく、フローの I-C に進んだ場合、モニタリングポストにおいてもバックグラウンドに影響がなくても SERP に進むのか。	フローの I-C でモニタリングポストにおいてもバックグラウンドに影響がない場合は、「追加対応なし」となるが、SERP に進んだとしても評価結果が「追加対応あり」になるとは限らない。
⑪	事業者のモニタリングポストが放射性物質を輸送す	フローの I-C の表現について検討する。

	<p>る車が通ることによって値が変化する外的要因を考慮した「バックグラウンドの揺らぎの範囲」の設定が難しい。</p>	
--	--	--